

本サンプル問題の著作権は日本商工会議所に帰属します。  
 また、本サンプル問題の無断転載、無断営利利用を厳禁します。本サンプル問題の内容や解答等に関するお問い合わせは、受け付けておりませんので、ご了承ください。  
 それぞれの問題の参考となるハンドブックのページを記載していますのでご参照ください。√

## 1 級 サンプル問題

### ① 小売業の類型

1. 次の各問の【 】の部分にあてはまる答えとして、最も適当なものを選択肢から選びなさい。

第1問 まちづくり三法のうち、【 】は、まちづくりにおける活性化の側面にかかわる制度であり、他の2つの法律は、まちづくりにおける規制側面にかかわる制度である。

- (1) 都市計画法
- (2) 中心市街地活性化法
- (3) 大規模小売店舗立地法
- (4) 地域商店街活性化法

第2問 FC 業界におけるロイヤルティの算出方法のうち、【 】方式とは、店舗面積や客数など、その業種の規模を表す大きさや数量によって算定する方式である。

- (1) 売上高比例
- (2) 粗利益分配
- (3) 定額
- (4) 営業規模比例

第3問 同一品種内の品目数を絞り込むことと単品の在庫数量を減らすことを【 】在庫運営という。

- (1) 多品種少量
- (2) 少品種多量
- (3) 多頻度少量
- (4) 少頻度多量

第4問 アメリカのスーパーセンターの特徴の一つは、①【 】立地に平屋ワンフロア構造で 10,000 m<sup>2</sup>超の売場面積を持つことである。

- (1) ダウンタウン
- (2) アーバン
- (3) サバーバン
- (4) ルーラル

第5問 ショッピングセンターを継続的に繁栄させる【 】な存在とするためには、顧客満足の実現とともに、顧客サービスの質と密度を経常的に高めながら、最適コストで施設の管理運営を行う。

- (1) グローバル
- (2) ローカル
- (3) サステイナブル
- (4) エssenシャル

第 1 問	第 2 問	第 3 問	第 4 問	第 5 問
上巻 p.7 第 1 章第 1 節 1-3(2)	上巻 p.46 第 2 章第 4 節 4-1(3) iv)	上巻 p.72 第 3 章第 7 節 7-1(1)	上巻 p.76 第 3 章第 8 節	上巻 p.117 第 5 章第 3 節 3-2(1)①

2. 次の各問の【 】の部分にあてはまる答えとして、最も適当な語句・短文を記入しなさい。

第1問 持続可能なまちづくりなどのために、都市のさまざまな機能を都市の中心部に集積させるまちづくりの考え方を【 】という。

第2問 一人ひとりの顧客が特定の小売店に対し、生涯にわたってもたらす価値（利益）のことを【 】という。

第3問 一般に、物流センターから小売店の各店舗までの配送では、店舗が必要なときに必要な商品を必要な量だけ供給する多品種少量型の【 】物流システムがおこなわれている。

第4問 商店街の3つのタイプのうち、【 】とは住民の来訪を待つのではなく、住民のもとに出向き、商業需要などに対応する運営を行う商店街のことである。

第5問 多くの投資家から集めた資金で、オフィスビルや商業施設、マンションなど複数の不動産などを購入し、その賃貸収入や売買益を投資家に分配する商品のことを【 】という。

第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
上巻 p.8 第1章第1節 1-4 欄外	上巻 p.53 第3章第1節 1-4 (3)欄外	上巻 p.86 第4章第3節 2-3 欄外	上巻 p.104 第5章第1節 1-3(3)	上巻 p.119 第5章第3節 3-2(1)欄外

## ② マーチャンダイジング

1. 次の各問の【 】の部分にあてはまる答えとして、最も適当なものを選択肢から選びなさい。

第1問 カテゴリーマネジメントの機能において、一般の消費者に対して、商品回転率が低い商品に関しても気軽に購入できる便利な小売店として認識されるためのカテゴリーを【 】購買商品群という。

- (1) 計画的 (2) 必需的  
(3) 時期的 (4) 補完的

第2問 総売上高の主要な割合を占める商品を【 】 またはベストセラー商品などと呼んで選定している。

- (1) 基幹商品 (2) 特売商品  
(3) 季節商品 (4) 死に筋商品

第3問 アメリカの統計学者 W.M. パーソンズが考案したもので、月ごとに前月に対する変化率を計算し、その前月比の平均値を季節変動値とみなす方法を【 】という。

- (1) 特定年基準法 (2) 連環比率法  
(3) 月別平均法 (4) 移動平均法

第4問 原価法による棚卸資産の評価法のうち、棚卸商品の種類、品質、型が異なるごとに区分し、仕入の古い順に販売されたものと仮定し、期末棚卸商品は期末に最も近いときに取得した商品から構成されているとみなして評価する方法を【 】という。

- (1) 最終仕入原価法 (2) 先入先出法  
(3) 移動平均法 (4) 売価還元法

第5問 主に大手のCVSチェーンでは、商品分野別のサプライヤーをとりまとめた温度帯別時間帯指定の【 】を採用して、効率的な積載と運行を可能にしている。

- (1) カテゴリー納品 (2) 共同配送システム  
(3) 倉庫管理システム (4) 窓口間屋

第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
上巻 p.138-139 第1章第1節 1-3	上巻 p.147 第2章第1節 1-2 (3)	上巻 p.177 第3章第1節 1-3 (2)	上巻 p.214 第4章第1節 1-4 (2) 表 4-1-1	上巻 p.245 第6章第1節 1-2 (1) ④

2. 次の各問の【 】の部分にあてはまる答えとして、最も適当な語句・短文を記入しなさい。

第1問 価格弾力性とは、【 】に対する需要の感度を表す測度のことである。

第2問 経済的発注量は、次の計算式で求めることができる。

$$EOQ = \sqrt{\frac{2RU}{CI}}$$

R : 年間発注個数  
C : 仕入単価  
U : 1回当たり発注費用 (固定費)  
I : 【 】

第3問 正味運転資本は下記の式で求めることができる。

正味運転資本 = 流動資産 - 流動負債 = (固定負債 + 【 】) - 固定資産

第4問 純売上高 : 100,000 千円

商品回転率 (売価) : 5 回転

売価値入率 : 40%

粗利益率 : 36% の条件の場合、GMROI は、【 】 % である。

第5問 物流ABCの手順としては、①プロジェクトチームの編成→②活動 (アクティビティ) の設定→③諸経費の把握と費用の配分→④物流活動における【 】の測定→⑤作業の最小単位の原価を把握、となっている。

第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
上巻 p.148 第2章第2節 2-1 欄外	上巻 p.156 第2章第2節 2-3(3)	上巻 p.198 第3章第2節 2-4(3)	上巻 p.229 第4章第2節 2-2(2)	上巻 p.250-251 第6章第2節(3)

### ③ ストアオペレーション

1. 次の各問の【 】の部分にあてはまる答えとして、最も適当なものを選択肢から選びなさい。

第1問 発注の基本は、顧客がなぜその商品を購入するのかを考え、発注の仮説 (単品当たりの【 】の企画) を立てることである。

- (1) 資本投下利益率 (2) 総売上高  
(3) 仕入予算 (4) 最適数量

第2問 小売業におけるコストの中心は人件費であり、人件費の高騰という問題は【 】産業としての小売業の経営管理上、重要な課題になっている。

- (1) 資本集約型 (2) 労働集約型  
(3) 知識集約型 (4) 研究開発集約型

第3問 労働分配率とは、所得の分配の中で【 】の受け取る分け前の割合のことである。

- (1) 生産者 (2) 労働者  
(3) 消費者 (4) 管理者

第4問 欠品の最たるものは、品ぞろえ計画書と店舗における差があるために生じる【 】である。

- (1) 期限切れ (2) 売場欠品  
(3) 購買指数 (4) 在庫過多

第5問 生鮮食料品におけるロス管理では、「第1段階：発注」「第2段階：加工」「第3段階：【 】」の3つの各ステップでロスを抑える。

- (1) 包装 (2) 在庫  
(3) 陳列 (4) 販売

第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
p.18 第2章第1節	p.44 第3章第1節 1-1 (2)	p.71 第4章第1節 1-2 (1) 欄外	p.83 第4章第3節 3-1 (1)	p.85 第4章第3節 3-2 (1)

2. 次の各問の【 】の部分にあてはまる答えとして、最も適当な語句・短文を記入しなさい。

第1問 チェーンストアの店長に求められる目標のうち「顧客の支持」については、顧客支持率、顧客満足度、【 】が求められる

第2問 チェーンストアによる発注業務は、通常、①店舗での商品構成の決定→②【 】→③事前準備→④発注ミーティング→⑤週間基本発注→⑥前日修正→⑦販売活動、のような流れになっている。

第3問 LSPは、データにもとづいた効率的な人員配置と作業の【 】により、人件費を増加させずに利益確保や顧客サービスの向上を可能とする理論である。

第4問 売上高に変化がなく、棚卸減耗なども増加しない状態で総労働時間（総人時）を減らせば、短期的には従業員1人の1時間あたりの売上総利益を表す【 】は高まる。

第5問 定期発注法とは、発注間隔を【 】にした発注方法で、発注数量は発注のたびに計算して決定する。

第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
下巻 p.9 第1章第1節 1-3 (2)	下巻 p.18 第2章第1節(1) 図 2-1-1	下巻 p.44 第2章第1節 1-1(1)	下巻 p.55 第3章第3節 3-1(1)	下巻 p.84 第4章第3節 3-1(2)

## ④ マーケティング

1. 次の各問の【 】の部分にあてはまる答えとして、最も適当なものを選択肢から選びなさい。

第1問 P.コトラーは市場細分化の前提条件について、【 】とは、独自のマーケティング活動を特別に開発するだけの価値をセグメントが持っていること、という基準を挙げている。

- (1) 測定可能性 (2) 接近可能性  
(3) 実質性 (4) 実行可能性

第2問 リテールマーケティングの実施によるセグメンテーションにおいて、ニッチマーケティングは、【 】よりも顧客ニーズを的確に満たしているゆえ強い支持を得ることができ、プレミアム価格を設定することも可能である。

- (1) セグメントマーケティング (2) カスタマイズドマーケティング  
(3) ダイレクトマーケティング (4) STP

第3問 クラスタ分析の算法における「階層的分類法」は、【 】の2つの系列に整理される。

- (1) 単純集計とクロス集計 (2) o分析とv分析  
(3) 分離法と凝集法 (4) 内部環境と外部環境

第4問 店舗レベルでのROIを算出するための計算式は、次のとおりである。

$$ROI = \frac{【 \quad 】}{\text{売場スペース} \times \text{単位スペース当たり資産価値}}$$

- (1) 売上総利益 (2) 店舗営業利益  
(3) 当期純利益 (4) 純利益

第5問 VPスペースは、【 】と重点商品によって売場全体のイメージをビジュアルに見せることが目的である。

- (1) 品種 (2) アイテム  
(3) 低価格商品 (4) 代表テーマ

第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
下巻 p.143 第1章第2節 表 1-2-2	下巻 p.150 第1章第3節 3-1②	下巻 p.164 第2章第2節 2-2(2)①	下巻 p.231 第5章第2節 2-2(1)	下巻 p.244 第5章第3節 表 5-3-2

2. 次の各問の【 】の部分にあてはまる答えとして、最も適当な語句・短文を記入しなさい。

第1問 小売業経営における『マーケティングの5つの指導原理』のうち【 】の原理とは、顧客志向の理念を実現するために、市場や顧客の実態を正確に把握し、適正、かつ、妥当なマーケティング活動を遂行しようとする原理である。

第2問 ライフスタイルアソートメントは、多様な生活の幅を選択できるような売場づくりを目指すリテールマーケティングの一手法であり、【 】は、ある生活局面を高級化、ブランド化するものである。

第3問 ライフスタイルにもとづくカテゴリーマネジメント展開の土台となるのは、独自の【 】を創造することがライフスタイルアソートメントの基本であり、小売業が棲み分けるためのアイデンティティ戦略の武器となる。

第4問 個性の強い商品や特定の商品を強調するために、同一品種で多品目の商品と隣接陳列して顧客に訴求する表現方法を【 】という。

第5問 クロスマーチャンダイジングは同時購買を促進するが、関連陳列はそれとは異なり、【 】やついで買いを促すために関連した商品を多数組み合わせることで演出するディスプレイ方法である。

第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
下巻 p.131 第1章第1節 1-2(5)	下巻 p.166 第2章第3節 3-1(2)	下巻 p.169 第2章第3節 3-2(3)	下巻 p.245 第5章第3節 (9)	下巻 p.246-247 第5章第4節 (2)(3)

## ⑤ 販売・経営管理

1. 次の各問の【 】の部分にあてはまる答えとして、最も適当なものを選択肢から選びなさい。

第1問 J. H. ファヨールによる従業員管理の実行プロセスは、①計画、②組織化、③動機づけ、【 】の順となっている。

- (1) ④調整、⑤統制、⑥指令 (2) ④指令、⑤調整、⑥統制  
(3) ④統制、⑤指令、⑥調整 (4) ④調整、⑤指令、⑥統制

第2問 問題解決のための教育方法のひとつ、【 】とは、多くの職場で起こりうるような案件を的確、かつ、迅速に精度高く処理することができるのかを測るシミュレーション演習のことである。

- (1) ケースステディメソッド (2) プロジェクト法  
(3) インバスケツ法 (4) マネジメントゲーム

第3問 営業キャッシュフロー対流動負債比率は、財務流動性をキャッシュフローの観点から分析する経営指標であり、キャッシュフロー版当座比率とも言われ、次の計算式で求めることができる。

$$\text{営業キャッシュフロー対流動負債比率} = \frac{\text{【 】}}{\text{流動負債}} \times 100(\%)$$

- (1) 営業キャッシュフロー  
(2) 営業キャッシュフロー + 支払利息額 + 税金  
(3) 設備投資額  
(4) 1株当たりキャッシュフロー

第4問 ファイナンスリース取引は、リース資産の所有権が借り手に移転するかどうかで、所有権移転ファイナンスリース取引と【 】取引に分類される。

- (1) レンタル契約 (2) ソフトウェアリース  
(3) オペレーティング (4) 所有権移転外ファイナンスリース

第5問 コンビニエンスストア・チェーン業界におけるトレーサビリティシステムでは、【 】にもとづいた履歴情報を追跡、管理することによって、費用の削減と効率的な運用が実現している。

- (1) 消費期限 (2) 賞味期限  
(3) プロダクトライフサイクル (4) フランチャイズ契約

第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
下巻 p.262 第1章第1節 1-1(2)	下巻 p.283 第1章第3節(4)②	下巻 p.298-299 第2章第3節(2)	下巻 p.319 第3章第3節 3-2(1)	下巻 p.339-340 第4章第3節 3-2(2)

2. 次の各問の【 】の部分にあてはまる答えとして、最も適当な語句・短文を記入しなさい。

第1問 人事考課の評価方法において、絶対評価法の手法には、減点法、図式尺度法や、基準以上をプラス、以下をマイナスとして符号をチェックし、総合して評価する【 】法などがある。

第2問 人事考課における心理的誤差傾向である、【 】とは、何か1つよいと、何もかもよく評価してしまうように、部分的印象で全体評価を行うエラーのことである。

第3問 定期借地権の種類には、「一般定期借地権」「【 】」「建物譲渡特約付借地権」の3つがある。

第4問 準都市計画区域とは、都市計画地域外の区域において、市街化が進行すると見込まれる場合に、【 】を規制するために設ける区域である。

第5問 企業がDXの導入に取り組むメリットとしては、業務の生産性の向上や消費行動の変化への対応以外に、自然災害や設備事故などのさいに早期の復旧をはかる【 】計画の充実につながる点などがある。

第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
下巻 p.271 第1章第2節 2-2(3) 表 1-2-1	下巻 p.273 第1章第2節 2-2 (4)表 1-2-3	下巻 p.305 第3章第1節 1-2(2)	下巻 p.309 第3章第2節 2-1(3)欄外	下巻 p.341 第4章第4節(2)